

ローマ字論の本質

— 松下秀男君に答える —

高倉ケル

本誌前号に松下君の「ジ・ヂ・ズ・ツの問題」がのっている。それ
を主としてほくえの批判であつたから、ここで簡単に答へする。
「簡単に」と云うのは次の理由によるものだ。

(1) 同じ号のほくえの「ローマ字運動の過去・現在・未来」が偶然
にも松下君えの返事になる部分お多く含んでいた。したがって、松
下君もはや理解している点も多いと思われぬ事。

(2) 松下君は無理やり日本式お「ベンコ」よーとしているのと、
それから知識の不足とから、あの文章にわ多くのまちがいお含んで
いる。それお指摘すれば、その他の点も自ら明かになる。

2

第1に、松下君はほくえ「ジ・ヂ・ズ・ツの区別お廃止すると云っ
て「廃止論者」と呼んでゐるが、これが大きなまちがいだ。ほくえ、現在
大多数の日本人がジ・ヂ・ズ・ツの区別お無くしてどちらもジ・ズ
と発音しているのに、区別して書くのは不合理だから、区別のない
場合にわ区別なく書くのがよいと云うだけの事で、di, duの発
音お無くしてしまへとも、di, duと発音する場合に di, duの書ま
方がやめてしまへとも決して云ひわしない。

「土佐の人を水お midu と発音する。」



ローマ字運動
のぞ記
B.-P.

ローマ字運動
ちかぶりの様子
についての感想
二三。

1. さしえ
長いあひだもみ
あつた調査会
談をやつとケリ
がついて、「国
定ローマ字」が

出されたのはよかつたが、そのあとの運
動の動きがおくまりハツとしないのは、
どうしたことであらう?

「ボン式」の方は、たいしたことは
ないとしても、新異努力と云ふべき、
日本式の方が、「国定ローマ字」を
めづつてコタコタしてゐるの代、大衆的
立場から見て日本のローマ字運動のた
めにイカン千万と云はなければなら
ない。「ボン式」を察せられた事を以て、

と申す場合にまで du の書き方 おやめろとわ 決して云わない。wi, we, wo, kwa, gwa すべて同様だ。

ほくが、mizu, kai と発音する場合にわ mizu, kai と書いたほうが いいと云って 今度の 国定綴り方 お支持しているのに対して、松下君が mizu, kai と発音する場合に Midu, Kwai と書けと云う。その理由として、今でも di, du, kwa, gwa などの音お残している地方が多いと云っているが、それなら 古事記や万葉に明かに書き分けられている二種の エ・ケ・ロ その他の音おなほ 区別して書こーとしたいのか？ これらお 区別している地方も今でも 相当ある。現に、松下君が「ローマ字世界」に記している古事記の歌お見ると、これらの区別お全然無視して書いている。当時 明かに区別したものをさえ 区別なく書き現しているのに、現に 区別のない場合にまで 区別しよーとする理由も 一体どこにあるか？

3

第2に、松下君が文字の意味お表すものだと云っているが、これお 実にはローマ字論者の口から出たと思えぬ言葉だ。コトバは音と意味を包含していると云っているが、意味お表す音おコトバであって、コトバの音と意味とわ 決して離れたいものではない。その音お最も音に近く合理的に書き表すことによつて、その音の持つ意味お最も正しく伝える所にこそ、ローマ字の最大の長所がある。それに、mizu と書いてわ 水の冷たさが 感ぜられないとか、漢字の長所おローマ字に取り入れなければならないなどと云うに重つてわ、自らローマ字の理論お捨てるものだ。現在の大部分の日本人が、midu と書くよりえ、ミツと書くよりえ、ミヅと書く事に 打ち合は

ローマ字運動の新しい世紀を画すべき使命が与へられておる時に、兄弟垣にセメいでおるのは、ちかごろまつてジレッタイ話である。

2. その原因の一つをなしておるが、先の問題については、本誌前号でたいぶ議論があつたが、ジ、糸、シ、の表記による区別は今の日本の標準語にとっては無用である。ちやうど、si, shi の区別が日本語で必要でない

のと同じことである。

また、最近の「ローマ字の日本」には、階層式カナ遣が二三見られるが、K 以外の「文章読本」のカナ遣も特殊なものである。ローマ字論者としてカナ遣は如何なる方式によるべきかはまづ決定して置く必要がある。ローマ字論者は日本語を建て直す人々だから、現在支配的な日本語表記法にたいする態度を定めることは緊急の問

水の冷たさを感じているのだ。

更に、L knife に発音しないkを書く事が非常にブタンになつてゐるとは一度耳にしなかつたといつてゐるのわ無知も甚しい。イギリス・フランス・アメリカその他の発音式・綴字運動について全く知らないらしい。イギリスの The simplified spelling society の小生がいかん knife の k や psalm の p お落すかとやう統計おぢやんと示してゐるし、

‘It woz on the ferst dai ov the neu yeer
that the anounsment woz maid, ...’

で始まる H. G. Wells の ‘Star’ その他これらの出版物にわすべて
nif ままわ nivz と印刷されてゐる。

4

第3K、松下君のワコトバの変化の理由としての大衆の意志と支配層の意志とお全く混同してゐる。

「拗音、撥音、促音のみならず、カク(客)、ケツ(月)、テツ(碁)、シユク(肅)、ジユク(塾) その他多くの音が支那から輸入せられた。(しかし、これらの決して大衆の意思によるのでなく、当時の支配層が無理に大衆に押しつけたものだ。支配層から押しつけられる時、多くの場合いやでも大衆がこれに従わないわけには行かない。現在、L特許局、L帝国劇場、L毎日新聞などの云いにくいワコトバでも、支配層から押しつけられるは、大衆がそれを使わないわけには行かないのと同じ事だ。この場合、大衆が使つたとやう事わ少しもそれが大衆の意志だとやう証拠にわならない。逆に、L帝劇、L東日とやうよく大部分略語ですましてゐる所にこそ、それに対する大衆の意識はな-

題でなければならぬ。

3. Kitchin 氏の《文章読本》は今日のローマ字運動の反映としていろいろの点で興味があるが、なかで《昭和維新と文字改革運動》の一章を設けられてゐるのは時節がら人目をひくことおヒタカしい。わねわれはできるだけ詳しく許されるだけ具体的に昭和維新なるものの内容とそれに關聯する文字改革運動についてローマ字運動指導者

から聞きたい。半年ほどまへに《ローマ字の日本》を題させた《思想性》前題と《昭和維新》の關係について、わねわれか説明してくれませんか？

4. 昭和維新などと別に關係があるわけではないが、ローマ字運動では、いまつて《學士》号かてはやされてゐるのはどうも目ざはりである。學士椽なら娘をやろかと云つたのは昔のことだし、連日連夜製造されてる医

い反抗と否定が 見出さなければならぬのと同じに、gak お ga-ku, kak お kyaku, tet お tetu に 変えて 発音している所に、それらが 当時 いかく 大衆の あいかに はいりに くいものであり、大衆が 無自覚の うち いかく 反抗したか とう 事実が 汲み取らなければならぬ。

かつて 現在の ha わ fe であった。また、水 wa どこでも midu または midi と 発音された。現在 リューキーでも 東北地方でも midi であり、土佐 その他に midu の 形が 残っている。この 古い音を 主として 生産的に 選ばれた 地方に 残っている 点に、保くたあわ 生産手段としての コトバの 進化が 社会の 進化と 正しく 一致する 事実が 見出す。

松下君が、ファン・フィルム・カフェーの形 で f の 音が 再び 輸入された と云って、大衆が すべて fan, firumu, kafê と 発音している ように 云っているが、こゝこそ 日本式の 理論が ベンゴする ために 争突が 語彙の 何よりの 実例だ。現在 大多数の 大衆が huan, huirumu, kahuê と 発音する 事によって、一部 文化人が むりやり 押しつけた fan, film, kafê の 意図しない 反抗が 明かに 示しているのだ。

5

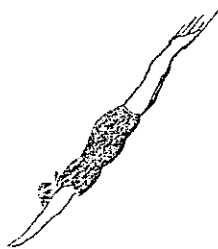
第4に、松下君が、hanadi (ハナ血), kanaduti (金ツ子), gihudyōtin (ぎふぢョーチン) おあはて し-d と なる 事が 日本語に 傷く 機能であり、性質である と云って、hanazi, kanazuti, gihuzuyōtin と 書く 事によって 訂正しているが、それなら し 發・馳・水・濁し の ように ^{母音} i, u の 前で d-z の 変化が 現行 行われている 事実が 全然 認めない 理由が 一体 どのに あるか？

学ハカセに至つては、帝都の踏次ウラに 煙を 漲らして なるほど フンサと コロか つて ありと する。ローマ字の本には 学士の タイトルが オマジナヒの やうに クツツいてるのは、近ごろの 新官儀主義と 一脈の つながりがあるのかしら？ さう云へば 《……氏 (Udi)》 を つか つかつて いるのも、わねわね 平氏と しくは 兵と ころない。東京の まくを むで 《……ウジ》 (Uzi と Udi の 区別は

フォネームの上から 必要を感じないか) と やられたら、目を ぱちくり させて、頭に Tyonmage が 乗つて いるのか と 手を 動かして なるほど なるほど なるほど。 昭和維新では どうだか 知らないが、 明治維新には 《僕、若》 と ともに 《…君》 なんて 新ヤムツヒ 階級に 珍重 された と 思はれるし、 帝国議会では みるな 《…君》 よびである。それなのに 今時の 若いものは 《氏》 とは 何ぞや、である。

以上松下君が日本式おベンゴするためいかに勝手に議論おこし
しらせ上つてゐるか分かつただろーと思う。松下君の文章お読みと
なるほど松下君お日本式論者にお相違あるまいが、果して眞のローマ
字論者かどーかとやう大きな疑問お抱かされる。

松下君はじめ一部のローマ字論者お今でも、普通に「し」^シ「ま」^マ
「さ」^サ「ん」^ンとやう場合に Udi とやうコトバお使い、手紙の終りの
「さよーなら」^{サヨナラ}のかわりに「かしこ」^{カシコ}お使つてゐる。「うか」^{ウカ}「た」^タの「かしこ」^{カシコ}
「だ」^ダのとやうコトバお、現在大衆お絶対に使わぬコトバである
のみならず、過去にも大衆お一度も使つたことのないコトバだ。そ
れお封建時代の支配者である極めて少數の武士だけが使つたコト
バだ。そんな大衆にお縁遠いコトバお押しつけることお、丁度むかし
支配層^{漢字や}が漢字による奇妙な音を大衆にお押しつけたと同じやり方で、
ローマ字書きにする事によって日本語お生産点の口語にお最も近く
書き表し、それによって国語・国字の生産手段としての適當な発達お
はかろーとするローマ字運動おそのものと全く逆行するものでないか?
松下君のまうがいわすべてここから生れて来るものだ。



《…サン》といふ平等な立場を表現で
わねわね平民はタクサンである。また
手紙の終に使ふ《かしこ》もおかしな
ものである、《サヨナラ》でなくさく
ではないか。

5. いま1,000人増加のスコ
ーカンで会員募集お行はれてゐる。たい
へん結構なくはだてだ。忘たなくその
成績を發表して、わねわねへの刺激
はたましそやつてもらひたい。年々の

総奮闘にお、財政状態その他を遠慮
なく發表して、わねわねをしてローマ
字運動においする認識を常に新しく、
より深くしてくれるのは有難い。会員
数おほむ方筆さういふふうにお願ひた
い。

6. 最後に、ローマ字運動では日
本より新しい京都では、音韻の水準や
そのほか文学作品おドシドシローマ字
化されてゐるが、日本では文学のロー